

日本労働 東京鐵工組合

總同盟 理事會 原 虎一
組合 長 日 田 謙 七
會計 監 査 八 瓶 章

參加の強制は不都合である」「土井君が工場主より給料を取るのには不都合である」「義捐デーを設けたるは不都合である」等、さながら工場主の代辨者の如き標語を掲げ、或は、「消費組合が福岡君の不正に依つて潰れるから、出資券を買却せよ」と宣傳し、或は「我々の運動には工場主の姻戚が加はつて居るから、我々に反對するものは滅首される」等實に鼻持ちならぬ毒手段を弄して、訓練淺き婦人組合等を味方に引き入れたのである。

御用組合組織の決議を行はんとす

かくして、石橋君一派は、自己の勢力加はると見るや、三月十二日突如として支部總會を開催し、御用組合組織を決議せんとし顧問松岡氏に出席を求め、且つ議長に推選して、松岡氏の發言を封せんと策した。

これより先き、石橋君等が、日労働と結托して運動しつゝありしを知る東京鐵工組合本部は、再三石橋君に忠告したるも何等反省の色なきに依り、これを除名したのである。

果然、總會に於いては、彼等一派は岡部従業員組合の組織を頑強に主張し、且石橋君の除名に反對したのである、而し乍ら同總會は結局、今後幹部間の懇談によつて問題の解決を計ることに決定し散會した。

非階級的横車を押す

其後、鐵工組合本部並に松岡顧問と彼等一派との間に再三、再四懇談を重ねたのであるが、依然として彼等は、岡部従業員組合組織を主張して下らず、且つ又締付工場たるにも不拘組合脱退の自由を與へよとの愚言を弄し、松田君の如きは「總同盟の主張は正しいが、こうなれば意地でも横車を押しで見せる」等の暴言を吐くに至つた。されば東京鐵工組合は遂に彼等の非階級病的救ふべからざるを知り、松田君以下六名の除名を断行するに至つた。

支部の平和は恢復す

かくして三月廿三日、支部總會を開催し、新幹部の選出を行ひ、陣容を整へ、一部組合員も彼等一派にあざむかれたることを知るに至り、茲に支部の平和は全く恢復したのである。

我等の大威力

岡部製作所は、日本労働總同盟東京鐵工組合員に非ざれば雇傭せずとの工場規定に基づき除名されたる者を解雇した。これ當然である。ストライキに際して裏切りしたる者を、資本家に要求して解雇せしめることが出来るならば、これ實に労働組合の威力として誇り得るが如く、御用組合を設立し同志の血と涙に依つて獲得されたる團體協約權と、締付工場の特權を破壊せんとする非階級的不徳漢を除名し、又解雇せしめたことも、亦我東京鐵工組合の團體協約權の大威力であると稱して過言ではないのである。

彼等の醜體を見よ

事實は、雄辯に日労働一派の正體を物語るのであるが、其後彼等一派は、自稱、大同聯盟會員と稱する組合に何等關係なき輩に依頼し、岡部従業員組合なる無形の名稱を振り廻し、益々醜體を曝露しつつある。

我等が彼等日労働幹部一派の階級的裏切者をよく排撃し、我國労働運動史上に汚點を残さずして、我が東京鐵工組合大崎第六支部を守り得たることは、大崎支部聯合の同志諸君、並に、組合本部、總同盟本部の絶大なる援助と適切な指導のあつた賜と深く感謝し茲に同志諸君に一切の顛末を報告するものである。

昭和二年三月廿四日

日本労働 總同盟

東京鐵工組合大崎第六支部

府下北品川補ヶ崎四九四